



## 明日はわからない (次に備えるべきは何か)

1月③のごあいさつ

山内公認会計士事務所  
2021年1月20日(水)

気象庁のスーパーコンピュータは、天候、気圧、風向、気温などの変化を空間上の座標で示し、**微分方程式により時々刻々の大気の変動を天気予報**として発表している。予報の的中率は90%に近い時もあり、天気については人間は未来を見通すに近い状態になったと言う人もいる。しかし、**豊富な財源と優秀な人材を集めて多種多様な方程式と大量のデータを用いても、その結果はせいぜい2~3日先の天候**である。

過去の歴史を振り返ると、人間はほとんど見通しをたてても無駄で、**明日は解らない**というのが真実であろう。

コンドラチェフサイクルに従って、100年前と50年前を振り返って、今を見ると、**予想不可能な事件によって世界は動いている**ように見える。

**約100年前の1920年前後には、スペイン風邪(1918~1919)の大流行**があった。第一波は1918年3月アメリカのカンザス州の軍事基地で発生し、第二波は、7月米軍の欧州遠征による急速な拡大があり、第三波は冬に起こり翌春には終結したと見られる。世界の死者は、インドの1,250万人を筆頭に全世界で推定2,500万人が亡くなったと言われている。

1914年7月に起きた**第一次世界大戦**は、4年半の長期間に及び、ヨーロッパから世界戦争へ拡大し、1917年11月には帝政ロシアは革命によりソビエト社会主義共和国へ移行し、1918年11月までに参戦国は主要25ヶ国に及び犠牲者はロシアの170万人をはじめ戦死者1,600万人と言われている。

**約50年前の1970年前後は、1965年から1973年のベトナム戦争**が起きた。戦争の規模では第一次、第二次大戦に劣るものの、動員兵力、死傷者数、航空機の損失、使用弾薬等では、それらに匹敵するものであった。

**1973年と1979年のオイルショック**は、低価格の原油供給と高度経済成長に終止符を打ち、以後世界経済は低成長、長期不況時代へ移行していった。

**更に50年を経た2020年のコロナショック**は、世界にどのような影響をもたらすであろうか。

現在のコロナ及び過去の大事件を振り返っても、人類は先の予想を行う手だてを持つことなく危機に直面している。

このような過去を振り返ると、**人類は戦争だけは繰り返してはならず、疫病に対しては人類共通の敵として対決する必要がある**と思う。